

総合的な学習の時間

総合的な学習の時間においては、課題意識をもって主体的に課題を解決する力や情報を整理・分析して思考したり、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現したりする力を育むことが課題です。そのため、育成を目指す資質・能力を具体的にすること、探究の過程を充実させること、探究の過程に応じて1人1台端末を効果的に活用することが大切です。

I 目標の明確化や評価の充実のポイント

育成を目指す資質・能力を明確にするためには、各学校において定める目標を、学習指導要領に定められている第1の目標と各学校の教育目標を踏まえて設定するとともに、目標を実現するにふさわしい探究課題やその解決を通してどのような児童を育てたいのかを具体的に想定し、内容や評価規準を設定することが大切です。

総合的な学習の時間における評価規準は、次に示す点について作成することが考えられます。

【知識・技能】

※次の①～③をしている児童の姿について示す。

- ①概念的な知識の獲得
- ②自在に活用することが可能な技能の獲得
- ③探究的な学習のよさの理解

【思考・判断・表現】

※次の①～④の過程で育成される資質・能力を児童の姿として示す。

- ①課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

【主体的に学習に取り組む態度】

※次の①～③などについて、育成される資質・能力を児童の姿として示す。

- ①自己理解・他者理解
- ②主体性・協働性
- ③将来展望・社会参画

II 指導計画の改善のポイント

課題意識をもって主体的に課題を解決する力を育成するためには、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく探究的な学習の充実を図ることが大切です。探究の過程を充実させるためには、事前に児童の発達や興味・関心を把握し、これまでの児童の考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせたり、対象への「憧れ」や「可能性」を感じさせたりするなど、学習対象との関わり方や出会わせ方などを工夫する必要があります。また、学習活動の中で児童が学ぶであろう事柄について多面的、網羅的に予測し、意図した学習を効果的に生み出す単元の構成を工夫したり、児童の課題意識が連続発展するような手立てを講じたりする必要があります。

例えば、「身近な自然環境とそこに起きている環境問題」を探究課題として設定し、「ビオトープ」を主たる教材として位置付けた場合、指導者がフィールドワークやウェビング等を活用して「ビオトープ」から広がる活動や対象をできるだけ幅広く探索するとともに、探究の過程で児童の取組や思考が停滞しそうな場面を想定し、児童の意識や活動の向かう方向を的確に予測し、児童の思考を補助する手立てを明らかにしておく必要があります。

III 手立ての充実のポイント

情報を整理・分析して思考したり、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現したりする力の育成に向け、探究の過程に応じてICTを効果的に活用することが考えられます。

例えば、「情報の収集」の過程において、情報検索や調査の記録に活用するほか、「整理・分析」の過程において、1人1台端末を活用し、「考えるための技法」に応じた思考ツールによって自分の考えを可視化・共有化して議論する学習活動に取り組むなど、課題の解決に向けた協働的な学びの充実につなげることが考えられます。

課題意識をもって主体的に課題を解決する力や
情報を整理・分析して思考し、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する力を育む計画の改善

<単元名>

「守ろう、豊かな『地域の水源』」（第4学年）

<単元の目標>

水道水や地域の水源、自然環境について調べる活動を通して、自然環境の保全に向けた具体的な取組について考え、水源の確保と自然環境の保全とのつながりについて理解するとともに、地域の環境保全に進んで関わっていくことができるようにする。

【1 資質・能力の明確化】

・目標を実現するにふさわしい探究課題を設定し、その解決を通して育成する資質・能力を明確にしている。

<単元の評価規準>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①緑のダムには保水機能や水量の調節機能があることや、水源の確保と自然環境の保全とはつながっていることを理解している。</p> <p>②資料を読んだり、インタビューしたりしながら、解決したい課題に応じた適切な方法で調査したり、適切な言葉や分量で記録したりしている。</p> <p>③水源の確保と自然環境とのつながりの理解は、水源を確保し続ける方法を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>①自分の住む地域と他地域の地形等との比較から、水源や自然環境の保全について課題を設定するとともに、問題の解決に向けた調査方法を明確にしながらかつ活動の計画を立てている。</p> <p>②自分の住む地域の水源や自然環境の保全に向けた取組を明らかにするために、必要な情報を調査する対象に応じた方法で収集している。</p> <p>③自分の住む地域の水源や自然環境の保全に向けた取組を明らかにするために、情報を比較したり関連付けたりしながら、水源の確保と自然環境の保全とが深く関わり合っていることを見だしている。</p> <p>④地域の自然環境の保全に向けた自分の考えを、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。</p>	<p>①水源や水源を確保し続ける方法を明らかにするという目的に向け、自分で設定した課題の価値を見いだそうとしている。</p> <p>②自分と異なる意見や考えのよさを生かしながら、よりよい課題解決に向けて協働的に取り組んでいる。</p> <p>③水源の確保と自然環境の保全とのつながりに気付き、地域の環境保全に向けて自分のできることを見付け行動している。</p>

<単元の指導計画 (25 時間) >

学習過程	学習活動	評価規準・評価方法等	【Ⅰ 評価規準の設定】
課題の設定	<p>○社会科における浄水場見学を想起し、「水不足や川の氾濫の原因」、「水不足や川の氾濫が起きた場合の自分たちの生活への影響」について交流しながら問題状況を捉える。</p> <p>○自分の住む地域と他地域の環境等を比較して捉えたことから、「なぜ、地域の水はなくならないのか」という課題を設定し、見通しをもつ。</p>	<p>[思・判・表①] [主①] ワークシート① ・地域で水不足が起こらないことへの問いや、問題の解決に向けた調査方法の確認</p>	<p>・①では、水源の確保と自然環境の保全との相互関係の理解など、概念的な知識が獲得された具体的な児童の姿を記載している。</p>
情報の収集	○課題の解決に向けて、水源に関連する資料などを調べながら情報を集める。	<p>[主②] 端末上の思考ツール ワークシート② ・思考ツールを活用し、友だちとの関わりを通して、集めた情報を整理・分析している様子の確認</p>	<p>【Ⅱ 学習対象との出会い】 ・児童が問題状況を捉えたり、問題を見いだしたりできるように、児童の考えとのずれや隔たりを感じさせる学習対象と出合わせ方を工夫している。</p>
整理・分析	○1人1台端末を活用して、集めた情報を思考ツールで構造化するなどして整理し、水源の種類を予想してその根拠を交流した後、予想の検証方法について話し合う。	<p>[知・技②] ワークシート③ ・解決したい課題に応じた調査の方法や、収集した情報の内容・分量の確認</p>	<p>【Ⅱ 課題意識の連続発展】 ・予想の検証方法を話し合うことにより、体験活動を通して課題を解決するという考え方もつとができるようにしている。</p>
情報の収集	○課題の解決に向けて、水道水に利用されている川を遡る体験活動などを通して、必要な情報を集める。	<p>[思・判・表③] [知・技①] 端末上の思考ツール ワークシート④ ・思考ツールを活用して集めた情報の分類状況やその理由を確認 ・水源の確保と自然環境の保全との相互関係の理解の確認</p>	<p>【Ⅲ 1人1台端末の活用】 ・自己の考えをより深めることができるよう、思考ツールを活用して情報を可視化・共有化している。</p>
整理・分析	○1人1台端末を活用して、集めた情報を思考ツールで分類するなどして整理し、地域で水不足が起こらない理由について交流する。	<p>[思・判・表③] [知・技①] 端末上の思考ツール ワークシート④ ・思考ツールを活用して集めた情報の分類状況やその理由を確認 ・水源の確保と自然環境の保全との相互関係の理解の確認</p>	<p>【Ⅲ 1人1台端末の活用】 ・自己の考えをより深めることができるよう、思考ツールを活用して情報を可視化・共有化している。</p>
課題の設定	<p>○地域の自然環境の保全に向けた取組の現状から問題状況を捉え、自分たちの住む地域の水源を確保し続けるための方法や取組について交流する。</p> <p>○これまでの学習を踏まえて捉えたことから、「地域の水源を守り続けていくために、何ができるか」という新たな課題を設定する。</p>	<p>[思・判・表①] [主①] ワークシート⑤ ・自然環境の保全に向けた問いや、問題の解決に向けた調査方法の確認 ・課題設定の理由の確認</p>	<p>【Ⅱ 課題意識の連続発展】 ・前時までに捉えた水源の確保と自然環境の保全との相互関係を基に、地域の自然環境の保全に向けた取組の現状に触れることにより、児童の課題意識が連続するよう工夫している。</p>
情報の収集	○課題の解決に向けて、水源を守り続けていくための方法や取組を考え、それらを試したり資料を調べたりしながら、必要な情報を集める。	<p>[思・判・表①] [主①] ワークシート⑤ ・自然環境の保全に向けた問いや、問題の解決に向けた調査方法の確認 ・課題設定の理由の確認</p>	<p>【Ⅱ 課題意識の連続発展】 ・前時までに捉えた水源の確保と自然環境の保全との相互関係を基に、地域の自然環境の保全に向けた取組の現状に触れることにより、児童の課題意識が連続するよう工夫している。</p>
整理・分析	○1人1台端末を活用して、集めた情報を思考ツールで整理し、地域の水源を守り続けていくための効果的な方法や取組について交流する。	<p>[知・技③] [主③] 端末上の成果のまとめ ワークシート⑥ ・地域の環境保全に向けて表現した内容や理由、自分の考え等の確認</p>	<p>【Ⅱ 課題意識の連続発展】 ・前時までに捉えた水源の確保と自然環境の保全との相互関係を基に、地域の自然環境の保全に向けた取組の現状に触れることにより、児童の課題意識が連続するよう工夫している。</p>
まとめ・表現	○1人1台端末を活用して学習の成果をまとめた後、全校発表会において、他学年の児童や保護者、地域の人たちへ向けて地域の水源を守り続ける方法や取組について発表する。	<p>[知・技③] [主③] 端末上の成果のまとめ ワークシート⑥ ・地域の環境保全に向けて表現した内容や理由、自分の考え等の確認</p>	<p>【参考資料】 「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」 (文部科学省)</p> 